専大スポーツ
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.435

スピードスケート部　世界の舞台で羽ばたく

笠原 金メダル

ISUジュニアW杯 第1戦 1500メートル

２度目の世界大会で１位となった笠原

11月27日、フィンランドのセイナヨキで行われたISU（国際スケート連盟）のスピードスケート・ジュニアワールドカップ第1戦で、笠原光太朗（経営1・帯広三条高）が男子1500メートルで金メダルを獲得。マススタートでも3位に入賞した。

自身2度目の世界大会出場となった笠原は、「昨年の3位という結果を超えることができてうれしい」と喜びを語った。

笠原は2022／23シーズンの日本スケート連盟ディベロップメント強化選手。「1年を通しての活動が基礎体力や技術の向上につながり、レースに良い影響が表れている。今回の優勝は、自分のスピードスケート人生の中で通過点だと考えている。ジュニアからシニアに移行しても活躍できる選手を目指す」と今後を見据える。

（小田島美玖・文2）

W杯第2戦 500メートル

森重が2位

今季初の表彰台

表彰式を終え健闘をたたえ合う森重（左）

スピードスケート・ワールドカップ第2戦＝11月18～20日、オランダ・ヘレンベーン

男子500メートルで、森重航（経営4・山形中央高）が銀メダルを獲得した。

昨シーズンのW杯では5度表彰台に立ち、総合3位を獲得した森重が新シーズンを迎えた。初戦のノルウェー・スタバンゲル大会では3位に0秒002差で届かず、メダルを逃したが、第2戦では好走を見せた。得意の後半で伸びる滑りを見せ34秒45を記録。今シーズン初の表彰台入りを果たした。

第3、4戦はカナダ・カルガリーで開催される。今シーズンも森重の活躍から目が離せない。

（山縣龍人・法3）

専大スポーツ編集部公式WEB
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

福住が学生日本一

優勝カップを持ち笑顔の福住

日本学生ゴルフ王座決定戦＝11月29日～12月2日、宮崎県・宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部

学生日本一を決める大会で、福住修（経営2・明徳義塾高）が優勝した。

予選を通過した16人で争う決勝ラウンドは、1対1でホールごとのスコアを競うマッチプレー方式で行われた。福住は1回戦で川崎智洋（経営3・湘南工科大学附高）と対戦。専大対決を制した勢いそのままにトーナメントを勝ち上がり、学生日本一に輝いた。

福住は「年内最後の試合で優勝し、良い終わり方ができた。この結果に満足せず、日本学生と日本アマでも勝てるように練習に励みたい」と語った。

原田 2階級制覇

21年バンタム級に続きフェザー級制す

優勝を喜ぶ原田

全日本ボクシング選手権大会＝11月22～27日、東京・墨田区総合体育館

昨年のバンタム級で優勝したボクシング部の原田周大（法3・豊国学園高）は、1階級上げてフェザー級に出場。2年連続で優勝を果たし、2階級制覇を達成した。

原田は「昨年の優勝が運ではなかったと証明できてうれしい」と喜びを語り、「全ての試合で自分の得意な左ジャブをうまく使い、相手との距離を保ったまま試合を行うことができた。プレッシャーもあったが、国際大会を経験して技術が上がり、その成果を発揮することができた」と試合を振り返った。

今後の目標について、「2023年2月にアジア大会の代表決定戦が予定されている。対戦相手の対策を練りつつ、積極的に遠征などを行いボクシングの幅を広げていきたい」と原田。最後に「パリオリンピックに出場します」と力強く宣言した。

（鶴本あい・法2）

団体4位

57kg級 向田　86kg級 内田　準優勝

全日本大学レスリング選手権大会＝11月19、20日、大阪府・金岡公園体育館

大学対抗戦を兼ねて男子フリースタイルのみが行われた今大会。57kg級で向田旭登（経営1・花咲徳栄高）、86kg級で内田貴斗（経営4・和歌山北高）が準優勝。70kg級で西田衛人（経営2・韮崎工高）、79kg級で太田晃暉（経済3・星城高）が3位となるなど、出場8選手が健闘し、団体順位は4位と、昨年より一つ順位を上げた。

向田は、「準優勝はうれしいが、優勝のチャンスをつかむことができなかった。12月末の全日本選手権はパリオリンピックにつながる試合でもあるので勝ちたい」と語った。

また内田は、「ケガがあったが4年次生としての役割は果たせた。決勝まで行ったことはくじ運もあるため満足していない。全日本選手権では、一つでも多く勝ち、悔いのないように頑張りたい」と目標を示した。

（千葉里央・文1）

躍進 2位

優秀選手賞 喜志永　敢闘賞 淺野

司令塔としてチームを鼓舞し、優秀選手賞を獲得した喜志永

関東大学バスケットボールリーグ戦＝8月20日～11月6日、世田谷区・駒沢総合体育館ほか

約3カ月間に及んだリーグ戦。1巡目を首位で折り返したが、2巡目は故障者の続出などで失速。それでも21勝5敗で、昨年の4位を上回る2位に躍進した。

個人賞では、主将の喜志永修斗（経営4・豊浦高）に優秀選手賞が、淺野ケニー（経済2・洛南高）に敢闘賞が贈られた。

最終戦は4位の日大と対戦。開始直前に白鷗大の優勝が決定し「モチベーションを保つのが容易じゃない選手もいたかもしれない。しかし、リーグ戦最後のゲームでたくさんの観客に足を運んでもらっていたので、勝って終わりたかった」と喜志永。64－56で勝利し、リーグ戦を終えた。

喜志永は「どの選手でも得点を取れるのが専大の強み。リーグ戦序盤は特定の選手に得点が偏っていたが、リーグ戦を通してチームが一つになり、幅広い攻撃ができるようになった」と振り返った。

（野見山拓樹・文3）

石川 個人5位

団体総合は8位

石川・ホクソウアスセナ号の跳躍

全日本学生馬術大会＝11月1～6日、兵庫県・三木ホースランドパーク

障害飛越、馬場馬術、総合馬術による団体の3種目総合で専大は8位。個人では、石川侑真（経営3・宇都宮白楊高）・ホクソウアスセナ号ペアが総合馬術競技で5位に入賞した。

石川は、「パートナーである馬のコンディションが良くなかったこともあり、悔しい結果に終わってしまった。今年は1年間を通して、出る試合の多くで入賞することができた。優勝できる実力をつけ、来年に挑みたい」と前向きに語った。

（小室亜季・文2）

高見が5位

リカーブ女子

全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会＝10月14～16日、群馬県・群馬国際フィールドアーチェリー場

リカーブ女子に高見朋夏（経済3・足立新田高）が出場。トーナメント2回戦で敗れるも得点数の結果、5位となった。

（佐藤亮平・経済2）

合宿参加

▽バレーボール・男子日本代表候補若手有望選手合宿（12月12～16日）
甲斐孝太郎（文3・日南振徳高）／甲斐優斗（経営1・日南振徳高）